

平成20年3月31日

長い間ご支援頂きました
皆様方へ

財団法人半導体研究振興会
会長 岡村 進
理事長 緒方 研二
所長 須藤 建
名誉所長 西澤 潤一

拝啓 春暖の候、皆様方にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は本会に対しまして多大なるご協力とご支援を賜りまして心より厚く御礼を申し上げます。

さて、当財団法人は、本会西澤名誉所長が世界に先駆けて発明したpinダイオードの特許等を柱として各企業のご協力の下に、昭和36年5月24日、当時、認められなかった産学共同研究施設の大学構内受け入れに代わる学外施設パイオニアとして設置され、以来、半世紀近くを多数の方々の大なるご支援とご協力のもとに、所員一同が一丸となって自らが標榜する創造的な研究を重ね、皆様ご案内のとおり結晶成長に基づいた完全結晶、また、その結晶成長の原理に基づいた高輝度発光ダイオードや静電誘導デバイス(SIT・SIサリスタ)並びに光通信三要素を初めとする数々の世界的な研究成果と業績を挙げて参りました。

更に、近年はテラヘルツの分野においても世界の最高精度を誇る「テラヘルツ信号発生装置」の開発に成功する等さらなる発展が期待されております。この結果、長い間の人類の夢であった光の領域まで電波を広げたと申せましょう。

一方、この間、数々の研究論文を発表する傍ら、数多くの国内・外特許を取得すると共に優秀な研究者を多数輩出し、我が国における半導体産業の発展に大いに寄与・貢献した実績は計り知れないところであります。

そして、これまでに得られた数々の成果や業績は、これからも世界の研究者達の道しるべとして、永遠に光り輝き続けるものと考えております。

このように、半世紀近くに亘り産学共同研究のパイオニアとして我が国の半導体研究事業に貢献してきたところでありますが、近年、テラヘルツ波や電力電送などの実用化を残してはいるもののその所期の目的がほぼ達成されるに至りましたので、この平成20年3月31日付けをもって解散し、該当方面の特許維持管理以外の残余財産は本会「寄付行為」の定めるところにより東北大学に寄付することになりました。

今後、東北大学におきましては、寄付された当施設を『西澤潤一記念研究センター(仮称)』の学内共同施設として利用する計画と伺っております。我々といたしましても、世界が評価する西澤名誉所長のこれまでの輝かしい業績が東北大学に引き継がれ、より一層発展されることを念願するものであります。

幸い、西澤名誉所長の門下生達が、東北大学に移管された後の当施設の中において、さらなる進展を目指し研究を行うことになっておりますので、今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げます。

最後に、創設以来47年もの長きに亘り暖かく見守りご支援を賜りましたことに対し重ねて深く感謝を申し上げますと共に、皆様方のますますのご発展を祈念申し上げます。

敬具